

意見交換・小林委員長からのコメント

- 10/9に開催した第3回プロジェクトチーム会議では、各チームから検討結果について発表し、小林委員長からコメントを頂きつつ、全体で共有しました。今回の各チームの検討結果は、都市マスの計画に反映し、来年度以降の実行に向けて検討・準備を進めていきます。

	会場との意見交換	小林委員長からのコメント
まちなか	◆ ハロウィンのイベントについては、計根別でもカボチャランタンのプロジェクトをやっているので、うまく連携できると良いと思った	◆ 「俺たちが使いながら責任を持って管理する」という意気込みを感じ、チャレンジャブルすごく面白い。 ◆ 誰かの顔を思い描きながら具体化していくと良いと思う。
身近な地域の拠点	◆ 「ぶらっと茶カフェ」に高校生が加わっていくのは面白いなと思った。 ◆ 今回まとめるのが結構大変だった。小さな拠点を少しずつやっていくのがいいなと考えている。	◆ 災害はいつ起こるかわからないが、ハードではなく人間関係で守る。そういうのがどんどん薄れてきているからこういうことを考えようとしたのだと思う。 ◆ 高齢者は社協、小中学生は教育委員会というように、行政の縦割りとコミュニティの分断はほぼイコール。高齢者と若い世代をいかに結びつけるかが非常に重要。
公園・公共施設	◆ 冒険クラブという活動をしており、子供たちと丸山公園でキャンプするが、遊具が古く、ケガをすることがあるので、このプロジェクトは良いなと思う。	◆ 公園には、使う楽しさに加えてまずいところを壊していく楽しさがあるのではないか。そうするとこの木がないほうが良いよねとか、どんどん使いやすく、楽しくなっていくのではないか。自分たちで手を入れていくと、想いが重なり、自分たちのものとなるのではないか。
公共交通	◆ 使ってみてわかることがある。農高生の移動支援もできると良い。 ◆ 私は正直乗らないが、中標津のまちの人がどこに集まるのかということに関心を持っている。協力体制を作れたらと思っている。	◆ 困っていることを直してくれよと言うのではなく、困っていることをみんなでなんとか直そうよ、という意識でうまくいっている事例が国内の色々な所にある。 ◆ いきなり全部は変えられないで、大事な所からえていき、みんなで少し工夫することで見える化する。1、2年かけてチャレンジすると、良いのではないか。
計根別	◆ まちを歩いてみて、たくさん空き地空き家があったので、活用出来たら良いと思った。 ◆ 子どもたちの「カフェを作りたい」といった想いを大人が本気で叶えられると良いと思った。	◆ まちを歩くことによって、初めて自分たちが気づき、なんとかしなければいけないという声をみんなで共有することで、「じゃあ何かやろう」となる。 ◆ 住みやすく美しく心地よくて安心できる、中標津の中でモデルになるような動きに変わるのはないかと思う。



小林先生から最終講評

これから大事にすべきは F (Food) E (Energy, Education) C (Culture, Care) T (Transport)。この FECT が揃うと町が豊かになるし、色々な地域との交流が増える。中標津は財産をたくさん持っており、少しずつ FECT を見えるようにしていくと比較的短い時間で大きくまちが変わるのはないか。



今後のスケジュール

- 平成30年度からはじまった都市計画マスタープランの検討も、いよいよとりまとめの段階に入りました。
- 今後のスケジュールは、今年度内の計画策定を目指し下記のとおり予定しています。ただし、現在総合発展計画の見直しも同時に進めており、両計画の整合性を図るために、スケジュールを調整することがあります。
- 情報は都市マス通信のほか、町のホームページ・Facebookページでも発信していますので、ぜひご覧ください！

令和2年11月：素案とりまとめ（第7回策定委員会）
12月：パブリックコメント
令和3年1月：最終案とりまとめ（第8回策定委員会）
2月：議案資料提出
3月：議決



町ホームページ



Facebook ページ

都市マス通信 環境首都なかしべつ

2020.11
第18号

発行：中標津町 建設水道部
都市住宅課 街づくり推進係

第6回策定委員会を開催しました！(6/22)

- 第6回策定委員会は、当初4月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により6月に開催しました。
- 当日は WEB 参加も併用し、現地ではソーシャルディスタンスを確保しながら開催しました。
- 不慣れな状況で、円滑な会議運営には課題がありました。コロナ禍での検討の進め方や、アフターコロナを踏まえたまちづくりについて話し合いました。
- また、会議冒頭には小林委員長から、「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」、「コロナの先の世界」を見据えたまちの姿を考える際の話題提供がありました。



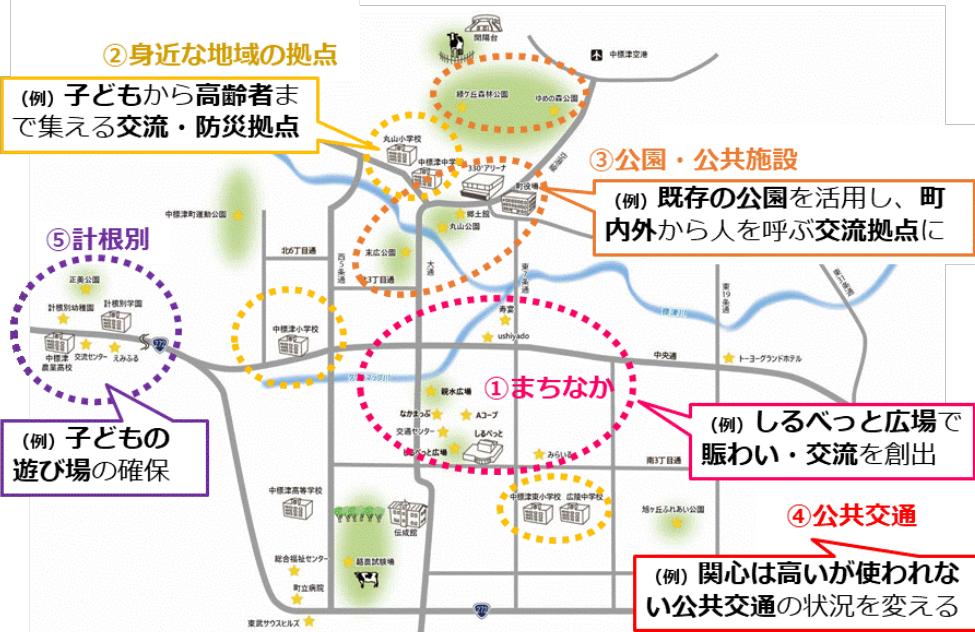
▲ソーシャルディスタンスを確保しながら開催



▲WEB 参加も併用

5つのプロジェクトチームが発足し、検討を開始しました！

- これまで委員会や対話の場、フォーラムなどで積み上げてきたまちづくりのアイデアの実現化に向けて、策定委員だけでなく、町民の皆様にも参加いただいてプロジェクトチームを設置し、次年度以降の具体的な進め方について検討しました。
- プロジェクトチームは、これまでの検討結果や現在の取組状況を踏まえて、5つ設定しました。
- 8/4に第1回合同会議を開催し、各チームの検討がスタートしました。8月下旬～9月にかけて各チームで第2回検討会議を開催して検討を行い、10/9には第3回合同会議を開催し、各チームの検討成果を共有しました。



第1回プロジェクトチーム会議の様子



▲各チームで、取り組みたいテーマや、チームリーダー、連絡方法などの運営体制を話し合い

▲各チームで話し合った内容を発表

5つのプロジェクトチームの計画をご紹介！

まちなか

目的・目標	・しるべと広場を町民であふれる自慢できるような交流の拠点にする	
どんなことをやるか	・町民、企業、行政が一体となってアイデアを出し合い、みんなの「やってみたい」を実現する。 ・より使いやすい広場に生まれ変わるために継続的な仕組み・仕掛けをつくる	
今年度中にやること(最初の一歩)	【何を・どうやって】 ・出来ることとアイデア出しを行い、イベントプランの実現に向けて検討	【誰が（関わる人）】 ・PTメンバー
次年度にやること	【何を・どうやって】 ・映えスポットの作成 ・牧草ロール設置（牧草ベッド） ・コスプレイベント ・ハロウィンやランタンも関連して	【誰が（関わる人）】 ・PTメンバー
実現化の課題	・牧草ロールを広場内に一定期間配置していくか。（例えば8月最終土日） ・牧草ロールの確保 ・資金繰り ・農業高校の生産物販売が可能か ・映えスポットやイベントの広報、周知	
次回までに調べること	・しるべと広場に牧草ロールの設置はルールで可能か。	



- 8月下旬から第2回プロジェクトチーム会議として、各チーム話し合いを行い、何を目標にどんなことをしたいか、いつ・どこで・誰が・どんなことをするかといった観点から取組を具体化しました。
- どのチームも高校生が参加し、若い世代と高齢の世代が活発に意見を出し合い、対話しながらとりまとめました。

身近な地域の拠点

目的・目標	(目標) 希薄になった地域コミュニティを令和に即し復活させる (目的) 拠点を作つて活動する	
どんなことをやるか	・既存施設を活用した拠点づくり、地域の人人が繋がり防災協力体制をつくる	
今年度中にやること(最初の一歩)	【何を・どうやって】 ・「ぶらっと茶フェ」×農高生 ぶらっと茶フェへ農高生が出向き農高製品の販売などすることにより、今集まっている地域の人たちと高校生との地域コミュニティが生まれる	【誰が（関わる人）】 ・社会福祉協議会 ・中標津農業高校 ・地元町内会 ・老人クラブ ・PTメンバー
次年度にやること	【何を・どうやって】 ・伝成館で開催している朝市（毎週日曜朝9時）に農業高校製品を販売するなどし、地域の人たちや朝市出店者、高校生との交流が生まれる。	【誰が（関わる人）】 ・伝成館（代表、朝市出店者） ・地元町内会 ・社会福祉協議会 ・PTメンバー ・N高生とも連携したい
実現化の課題	・農業高校の負担増大、農業高校製品製造予算の問題、開催時期の調整、ショーケースの確保	
次回までに調べること	・ぶらっと茶フェと連携できるか社会福祉協議会へ確認 ・町内会にも協力してもらえるか確認 ・伝成館の朝市について、事業者と協力体制等について確認	

公園・公共施設

テーマ	・お金をかけずに、まずは公園の情報発信！	
目的・目標	・もっと多くの人に公園を使ってもらう	
どんなことをやるか	・SNSで発信 ・トイレや施設に貼紙（発信内容…どこに聞いたら良いか等がわかる様に／何ができるのか） ・公園の特色等の情報収集	
今年度中にやること(最初の一歩)	【何を・どうやって】 ・焚火ができるようにしたい（森林公園） ・各公園の情報を集める ・単なる紹介ではなくキャッチコピーを付ける ・公園を見る	【誰が（関わる人）】 ・町 ・PTメンバー ・施設管理者
次年度にやること	【何を・どうやって】 ・施設の簡単な整備 ・FMはな、情報誌等での発信	【誰が（関わる人）】 ・ボランティアや各関係団体と連携したい
実現化の課題	・各団体との連携 ・PR媒体の検討	
次回までに調べること	・公園に足を運び、良さを発見する	



公共交通

テーマ	・町民の移動に“自由”を！	
目的・目標	・より利用しやすい公共交通を目指す	
どんなことをやるか	・空港と空路、バス、ハイヤー、その他の補助的な移動手段について個々の現状把握をしてから、中標津らしい公共交通のありかたを全体把握する。	
今年度中にやること(最初の一歩)	【何を・どうやって】 ・来年度のプロジェクトに向けた内容の検討 ・利用者アンケート（一般利用者用に交通センターに設置する、農高生にヒアリングをする） ・町営バスを一元化した時刻表を作成する ・実際にバスに乗ってみる	【誰が（関わる人）】 ・PTメンバー ・町 ・農高生
次年度にやること	【何を・どうやって】 ・各交通事業者等の現状把握、ヒアリング等 ・他地域の事例学習や視察 ・「中標津町らしい公共交通会議」の開催検討 ・中標津町交通センターの内部空間の活用検討 ・農高生の移動支援	【誰が（関わる人）】 ・PTメンバー ・各公共交通事業者等 ・町 ・一般町民 ・中標津農業高校生と学校関係者
実現化の課題	・各公共交通事業者の実態把握 ・関係法令の確認	
次回までに調べること	・各公共交通に関して情報収集	



計根別

目的・目標	・多世代交流により計根別を持続可能な地域にする	
どんなことをやるか	・計根別の将来全体像をイメージする	
今年度中にやること(最初の一歩)	【何を・どうやって】 ・計根別まち歩き（9/7 済）	【誰が（関わる人）】 ・農高生・町内会 ・PTメンバー
次年度にやること	【何を・どうやって】 ・小学校跡地の活用（ベンチを置く、テントを設置して農高の製品販売をしてみる） ・農高生と町内会（地元住民）とで計根別の未来のマチの全体像を考えてみる	【誰が（関わる人）】 ・農高生・町内会 ・PTメンバー
実現化の課題	・予算の問題。小学校跡地で販売する場合、電気、水道、保健所への届出。	
次回までに調べること	・年度農高生と活動できるよう学校のカリキュラムに入れることができるか確認する	